

- 日時 2013年11月28日(木)
18時00分～20時00分
- 場所 鹿折公民館
- 参加者 33名
協議会役員 11名
UR都市機構 4名
市職員4名(都市計画課2名、商工課2名)
市議会議員 2名
アドバイザー 2名、オブザーバー 10名



「鹿折地区まちづくり協議会 役員会」

2013年11月28日に鹿折まちづくり協議会役員会が鹿折公民館で開催されました。はじめにUR都市機構から鹿折地区及び気仙沼市の市街地に関するランドデザイン(将来構想)の考え方・素案について説明して頂きました。

URからの説明後は、まちづくり協議会・UR・市役所の3者によるランドデザイン策定に向けての意見交換が行われました。まちづくり協議会内で提案されている3大学のランドデザイン案の活用方法の確認・提案の実現性についても話し合われました。

今後の活動としても、3者が連携体制を取り、ランドデザインを具体化することの必要性が共有されました。

UR都市機構からの将来構想の考え方と提案

- ・ランドデザイン策定の目的
 - ①市民、事業者とイメージを共有し共同でイメージを作っていく。
 - ②市域全体あるいは外へ波及させること
- ・復興市街地と既存市街地の大きく2つに分け、ランドデザインを作っていく。
- ・ランドデザインのコンセプト【水産文化交流都市】
6つの視点将来の視点テーマ設定及びそのテーマ其々に機能設定をしている。
1. 便利 2. 安心 3. 産業 4. 観光 5. 交通 6. 潤い

意見交換の内容

- ・嵩上げエリアと低地エリアの間にある空白地帯の今後の土地利用がどのように計画されているのか気になる。今すぐ使える場所でもあり、検討すべき!
- 現在は準工業地域なので、商・工業施設は建てることは可能だが、具体的な土地利用計画については、現段階では考えていない。
- ・用途地域の変更があるならいつごろか? →早くても来年度半ばごろ。
- ・民間活用に関してURはどのようなスタンスを取り、サポートをするのか? →将来できることを明示し業者が投資しやすいようにマッチングをおこなう。
- ・公共施設関係がどこまで示されているか教えていただけるか? →水道事業所、公民館、ポンプ場など
- ・病院・医療施設等の計画・誘致も検討してもらいたい。

今後の協議会の進め方と協議内容

- ・自主的にまちづくり協議会及び地域住民将来のまちに対する提案・要望を考えながら、鹿折地区全体のランドデザイン案を考えていく

まちづくり通信 vol.9

2013年
11月17・28日
12月1日
開催分

制作・発行 鹿折地区まちづくり協議会

この「通信」は、11月・12月行われた鹿折まちづくり協議会の活動内容をまとめ、鹿折地区に住む住民の方々や被災して、地元を離れて暮らす方々に知っていただくため、発行しています。

「鹿折地区まちづくり協議会 定例会」

2013年11月17日に鹿折まちづくり協議会定例会が鹿折公民館で開催されました。はじめに会長から開会の挨拶がおこなわれました。

当日の主な議題としては、かもめ部会から「下水処理施設(ポンプ場)の移転・活用」について挙げられました。今後、ポンプ場の移転を求める動きを協議会がおこなうことも話し合われました。次に、当日の午前に行われたまちづくりサロンの報告と話し合われた中で出された課題について、話し合われました。

最後に、前回の定例会で発表された3大学の鹿折の将来像の提案について整理した内容が説明され、今後のスケジュール・まちの将来像を検討する上での項目が共有されました。

- 日時 2013年11月17日(日)
13時30分～15時00分
- 場所 鹿折公民館
- 参加者 19名
鹿折まちづくり協議会役員 12名
市議会議員 1名
アドバイザー 1名
オブザーバー 4名
協議会事務局員 1名



「鹿折まちづくりサロンの概要」

- 日時 2013年11月17日(日)
10時00分～12時00分
- 参加者 15名(住民2名)
- 場所 鹿折まちづくり協議会事務所



2013年11月17日に鹿折まちづくり協議会の事務所にて、まちづくりサロンを開催しました。

当日は、今後の「商業エリアに関する展望や要望」についてや「復興整備事業の状況を把握」、「鹿折地区の特徴を活かしたまちづくり」について意見交換がおこなわれました。その他にも、これまで、協議会としても課題として挙げられている住民のまちづくりへの参加・組織づくりの必要性が語られました。

- 日時 2013年12月1日(日)
13時30分～16時00分
- 参加者 19名(住民9名)
- 場所 鹿折中学校仮設住宅 集会所



当日は、3大学の学生から、提案された鹿折地区の将来像・イメージを参考資料として、参加者である仮設住宅の住民のみなさんと意見交換を行いました。

参加者からは「住宅地」、「災害公営住宅」など住まいに関する意見や「商業施設」、「公共施設」など暮らしを支えるまちの機能・施設に関する意見が多く挙がり、今後のまちの将来像を考えていく上での新たな課題・検討項目が共有されました。

当日、参加していただいた地域住民からの意見・提案をまとめて、掲載しています。

地域の商業エリアに関する意見

- ・一つの施設内に各店舗が集約した商店街形成を検討してほしい
- ・個々の店舗が独立していると、買い物がしづらい。
- ・将来的に、店舗がまとまって共同化できればよいが、民間だけの力では難しい。
- ・低地ゾーンに商業施設を集約させる動きも考えられるが、土地の確保が課題になる。
- ・地域内外のお客を呼び込めるような店舗の魅力づくりが必要である。
- ・地元商店街と大型店舗・チェーン店の地域内での役割を再確認することが重要である。

復興整備事業に関する意見

- ・鹿折には、三陸道のインターチェンジや大島架橋ができ、交通の利便性は上がる。
- ・嵩上げ工事に必要な土を、鹿折の共有林から提供することはできないのか？
- ・鹿折川の堤防が、八幡神社辺りを境に切れているが、津波が発生した場合、上鹿折まで上がって来ないか心配。(詳しい説明が欲しい)
- ・災害危険区域から外れてしまい、防集にも参加できず、住宅再建の目処が立てられない。
- ・住民としてはまちの中心にポンプ場があることに違和感アリ。まずは、移転できない理由を明確にしてもらいたい。

まちづくり協議会への参加に関する意見

- ・人口流出が止まらない。将来的に人が戻ってくるかが心配。
- ・観光・水産加工場の関係者にもまちづくり協議会へ参加してもらいたい。
- ・スポーツ振興協会や婦人会など、地域の団体からも積極的に参加がほしい。
- ・地域の様々な人(特に若者)にまちづくりに参加してもらい、まちの魅力づくりや組織づくりを進めたい。

今後の協議会の進め方と協議内容

- ・大学からの提案をまちづくり協議会が協議する場を設けながら、協議会としてのランドデザイン案を考えていく。
- ・被災した地区だけでなく、上鹿折や四ヶ浜地区のまちづくりの課題にも協議会として取り組んでいく必要がある。鹿折全体で連携体制をつくる！
- ・まちの将来像を考えていく上で、地域全体の復興整備事業の計画を把握することが、将来のまちの特徴・魅力発見につながる。

当日、参加していただいた地域住民からの意見・提案をまとめて、掲載しています。

1班の話し合われた内容

避難計画に関する意見

- ・今の復興整備計画では避難道路が足りない
- ・徒歩での避難方法が気になる
- ・低地ゾーンの避難計画が心配。緊急避難場所の指定などを設けて欲しい。
- ・鹿折の避難経路を東西を軸に計画してほしい。安波山や駅裏へ避難できるように道路整備！
- ・若い人も参加しやすい避難訓練の実施

商業・工業地に関する意見

- ・大きめの駐車場は必要
- ・歩いて買い物が楽しめる歩道空間がほしい
- ・雨や雪が降ったときの工夫が必要。足場が悪いと買い物客が減ってしまう。
- ・タウンセンターが出来るなら、スーパーや遊歩道(小学校まで繋がった)を付け加えたい。
- ・工業地帯は散歩する程度で利用頻度は少ない

災害公営住宅に関する意見

- ・1階に駐車場を計画し、周辺の土地を有効活用。
- ・最上階は避難場所として計画してもらいたい。
- ・近畿大学が描いたイメージ図が理想的！

鹿折川に関する意見

- ・緑化は積極的に取り入れてほしい。
- ・堤防に歩ける道路を整備してもらいたい
- ・堤防沿いのデッキの計画案は良いと思う

2班の話し合われた内容

避難計画に関する意見

- ・一時的に避難して集まれる広い場所がほしい
- ・避難場所には常に最低限の備蓄が必要
- ・震災・津波の体験を他地区でも活かしたい。
- ・低地ゾーンの避難場所は確保・計画されているのが心配。
- ・鹿折の北側のエリアはバイパスのトンネルの方へ避難できるように計画すべき。

商業地に関する意見

- ・商店を一ヶ所に集約して買い物しやすい空間を考えてもらいたい。(バラバラだと不便)
- ・買い物客が集まって喋れる場所があると良い。
- ・大きな公園を隣接させてほしい。
- ・病院はまちなかに必要！医療関係の施設は誘致してもらいたい。
- ・娯楽施設(ボウリング、ピンポン、囲碁等)の計画も検討

防潮堤に関する意見

- ・堤防が出来ても、海が見える暮らしがしたい
- ・正直、あまり高くしてほしくない。
- ・堤防が高いと、逆に安心してしまって逃げない

その他の意見

- ・子どもたち(中高生)の意見も聞いて、まちづくりを進めたい。若い人の参加を希望！
- ・多世代で集まり、話し合うことが必要である

総括
まとめ

- ・災害に備えた避難道及び避難場所の計画検討が必要
- ・商業施設の利便性向上・店舗の集約化。
- ・暮らしを支える主要施設(医療・娯楽施設)の検討
- ・自然に配慮した防潮堤・堤防の計画が望まれる。

